

キラリ☆くつ箱整とん週間

私たち児童会は、「くつ箱整とん週間」を決めて取り組んでいます。ロッカーの中敷きにかかとの部分をぴったり合わせて、まっすぐ置きます。きれいにできている人には、「きれいですよ」と書かれたカードをはって喜んでもらいます。始めたときよりもくせがついてきた人が増えました。でも週間が終わったら忘れられる人もいます。始める前はあまり変わらないかもしれないと思ってしまうが、みんなのくつがぴったりそろっているくつ箱はとてもきれいでした。私たちの学校を伝える一番目の場所、自分たちもいつでも気持ちよく使えるように3学期も活動を続けます。そして学校の文化としてつないでほしいです。

(上川口小学校)
菅 凜汐・深木 希音・橋田 壱太



真剣に取り組む人を笑わない

10月18日、2年生と3年生の代表で黒潮町役場に行きました。大西町長さんと藤本教育次長さんに防災教育の成果を発表するためです。

3年生は、震災後の町づくりについて、給食の残飯を利用して育てた家畜のブランド化やショッピングモール施設の建設など人が集まる元気な町づくりを提案しました。僕たち2年生は、これまでの防災学習を通して学んだことや町民の皆さんへのアンケートの結果から、これらの対策について考えたことを発表しました。

僕たちが考えたことの中には、実現可能かどうかわからないこともありましたが、町長さんは真剣に聞いてくれました。そして、真剣に取り組む人をバカにしたりする「冷笑主義」はだめだとも言っていました。僕も人のことをバカにせず、僕自身も一生懸命に頑張りたいと思いました。

(大方中学校 2年 二岡 優人)



炊き出し訓練に参加して

僕たち佐賀中3年生は、地域の方と合同で炊き出し訓練を行いました。今回作ったメニューは、ご飯と缶詰を使った防災食です。

僕たちのグループは、ご飯を作る係でした。作り方は、かまどで火をおこし、羽釜でご飯を炊くと思っていました。実際は違っていました。防災食ということもあり、ビニール袋(高密度ポリエチレン)で作ります。袋にカップ半分ほどのお米とカップ1杯の水を入れたら、袋の空気を抜き、先を縛ります。その後、沸騰したお湯の中に入れて30分ほど加熱しました。出来上がったご飯は、水の量により固めのものや柔らかいものもありましたが、缶詰を使ったおかずとあわせておいしくできたと思います。

実際に地震などの災害が起きたときは、今日のように材料も道具も満足に揃わないと思います。しかし、今回の炊き出し訓練で学んだことを応用すれば、いろいろなことに活かせると思います。もし災害などがあった場合は、僕たち中学生が率先して行動し、その場に応じて臨機応変に対応したいと思います。

(佐賀中学校 3年 濱田真宏・森田涼太郎)

